

# 浜街道を歩こう

熊野古道が、平成16年7月7日に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されたから、今年で15周年を迎えます。

熊野古道は、熊野三山である「熊野本宮大社」、「熊野速玉大社」、「熊野那智大社」へ参るための道で、紀宝町では「七里御浜」、「熊野川」、「御船島」が世界遺産の構成資産として登録されています。代表的なルートとしては、紀伊半島の西岸を通行する「紀路（紀伊路）」、東岸を通行する「伊勢路」があります。

江戸時代には、「伊勢に七度、熊野に三度」という言葉もあったほど、伊勢神宮や熊野三山は誰もが訪れたいと願う憧れの地であり、「伊勢路」は、日本人にとって特別な場所である伊勢神宮から、いくつもの険しい峠を越え、熊野三山を詣でるために通った「折りの道」です。

江戸時代前期までは、七里御浜から鵜殿を通るルートでしたが、その後は少し山側に入ったルートに移行していき、今回はそちらのルートをご紹介します。道端にたえず海岸線など、ハイキングコースとしてもおすすめです。



ここからスタート!

道の駅紀宝町ウミガメ公園

**1 徳本上人名号碑と恵比寿様**  
徳本上人を讃える石碑と恵比寿様が祀られています。かつては旅館や茶屋があり、巡礼や筏師たちの休憩の場所でした。



馬場地踏切を越えて坂を上っていきます。

街道からは海が見えますよ

- 浜街道
- JR線
- 国道
- 県道
- 一般道

**2 井田狼煙場跡**  
江戸時代には、鎖国政策の一環として、沿岸の要所要所に狼煙場を作り、外国船がこないか見張っていたそうです。



**9 加持鼻王子権現跡**  
特徴的な岩の形が印象的な伊勢路にあった数少ない王子の1つ。九十九王子として、加地鼻王子と深谷王子の2つがありました。



**10 七里御浜**  
世界遺産に登録されている熊野市から紀宝町にかけての18kmの砂礫海岸。井田川などの河口部は「親知らず子知らず」と呼ばれるほどの難所だったそうです。



**4 横手地蔵尊**  
1827年に建立。病氣平癒のご利益があるとして信仰され、地蔵前に湧き出る水は、霊水と伝えられています。



**5 首無し地蔵と導引地蔵**  
昔の旅人は上野街道と神内への分岐となるこの場所で道を誤りやすかったため、地蔵を建立したそうです。



**3 井田の一里塚**  
昔、新宮の堀端にあった龍鼓橋からここまでを一里として車馬の賃金の基準にしていました。



**6 耳切り坂**  
この付近は耳切という字で、現在は「みみきり」と呼びますが、かつては「みみきれ」と呼んでいたそうで、名前の由来は、耳が切れるほどの冷たい風がよく通るところという説があります。



熊野古道語り部兼 紀宝町文化財調査委員 福田美紀さん

熊野古道伊勢路の南端となる浜街道は、熊野三山のひとつである熊野速玉大社を目前に控えた、海岸沿いや高台などを歩くルートです。

中世以降、熊野詣をした方々は、松本峠を越え目的地まであとわずかとなった道のりに心を弾ませながら、美しい景色を楽しんだのではないのでしょうか。

また、この街道は舗装されている道が多く、石畳に代表される熊野古道のイメージとは少し異なっているかもしれませんが、さまざまな見所があり、魅力が詰まった街道でもあります。巡礼の道に思いをはせながら、歩いてみてはいかがでしょうか。

ゴール! 熊野大橋を越えて速玉大社へ

紀宝トンネル

成川小学校

鵜殿小学校

給食センター

国道をまたぐ橋を渡ります

紀宝警察署

うどの

**熊野古道世界遺産登録15周年 キックオフイベントを開催**  
【日時】7月7日(日) 午後1時30分～4時30分  
【場所】熊野古道センター(尾鷲市)  
【お問い合わせ先】 県東紀州振興課 (☎059-224-2193)



**8 成川の渡し**  
「渡し」とは舟を乗り降りする場所。かつて成川の渡しから舟に乗るときは、巡礼番所で25文を支払い、熊野川を渡っていました。



**7 粥森様**  
階段を登ると木の根元に岩が御神体として祀られています。近くにある飯森神社がご飯を盛ったような山の形に対して低くならだかであることからその名がついたのではないかという説があります。

- 参考文献
- 紀宝町(2004)『紀宝町誌』
  - 紀宝町教育委員会(1990)『文化財を訪ねて』
  - 鵜殿村教育委員会(2005)『鵜殿の文化財』
  - 三重県教育委員会(2009)『三重の文化 熊野古道編』
  - 三重県東紀州対策室(2009)『伊勢から熊野への歩き旅 熊野古道伊勢路図鑑』